



法然上人行狀畫圖第二十三

或人あつひと往生いとうじやうに用心しんしんよひきて條ぢやうこれ不審ふしんを尋たづ申まをせりまをに上人じやうじんに御返事ごへんじ云い

一まの毎日まいにちに御所作ごしよさ六萬遍むゐへんめぐりてたゞ供くううづづひの
心こころづくづくもも供くへへひひ。十念じゆん一念いつげんもも往生いとういい—
供くへへづづもも多おほくく申まを供くへへんん。上品じやうひんよよひひもも此こゝ供くへへ。
釋しやくよよええ。上品じやうひん華け臺たい見み慈王じやうわう。到者たうじや皆みな因いん念ねん佛ぶつ多おほく
とと供くへへんん

一宿善しゆくぜんよらわて。往生すべしと人の申まを供くわんん
ひが事ことにてハ供くわんり供くわんがわそ免めん乃此世こゝ此果報こゝ
だよままばきれ世乃罪功徳つとくよらわて。よくえ
あしとままじじよよまま事ことにて供くわんへん。あして往生
願ねがれ大事だいじ。あしし宿善しゆくぜんよららべしと。聖教せいぎょう
よまま供くわんややんんおおまま念ねん佛ぶつ往生じやうじやうハ宿善しゆくぜんれれ記き
にももより供くわんああややんん。父母ふぼををこころろ。佛身ぶつじん
より血ち返かへああややしたるしたる願ねがの罪人つとむを臨終りんじゆうり

十念申じゆねんまをて往生じやうじやうすと。觀經くわんぎやうよままええええて供くわん志し
ううに宿善しゆくぜんああつつれ善人ぜんじんハハななららへへ供くわんよよごごまま
悪あくよよををらられ佛道ぶつだうよよ心こゝろすすじじ事ことにて供くわんへへんん
五逆ごぎやくハハははいいににままくくははくくままががれれ事こと
にて供くわんハハららどどままよよ五逆ごぎやくの罪人つとむ念佛ねんぶつ十念じゆねんにて
往生じやうじやう願ねがげげ供くわんとと記きりり。宿善しゆくぜん乃のたた記きよよららわわ
供くわんああししくく供くわんととれれをを經ぎやうよよ。若人じやくじん造多罪ぞうたつざい得聞とくもん
六字名ろくじぢやうなま火車くわしや自然じぜん去き。平臺へいだい即来迎じやくらいごう極重惡人ごくじゆうあくじん

ちがひなきもして。悪世に九まをはたしつゝれて
 依。又九まご申と二の文字をい。狂醉れごと
 一と弘法大師釋したまへら。だに九まの
 心。ののぞきひらけよ。あひしつゝぞして
 善悪よつけくたいまひつゝめくる事れ。
 一時。煩惱きたびまづりて。善悪こぞれ
 屋とるまじ。づまの行なりとま。づら
 よて。行一が。ま。に生死をよれま。

佛道よいつに。菩提心を越つ。煩惱をけく
 して。三祇百劫難行苦行。くくを佛よは
 だるべきよて依。五濁の九まらち。にてハ
 願行それる事。れひ。くく六道四生に
 めぐり依なり。弥勒如来これ事。はたし。そ
 思食て。法藏菩薩ご申。い。く。が
 行。が。此僧祇の苦行を。兆載永劫があひ。ぶ。
 切をつ。徳を。ひて。阿弥勒佛よ。なり。たま

る。一佛りそれへちまへる。四智三身十力
無畏等れ。一切の内證れ功德。相好光明說法
利生等の外用れ功德。はましくなるを。三字の
名字れ中よたえんいきて。これ名号を十聲
一聲もてまごたへん。のをさへけけけけへん。
まへへん。はまき佛よたへん。ごとらへん。
路へん。の佛いま現よ世よあり。あて佛よ
たへん。名号はそれへん衆生。往生ごぶ

あへん。善導をたはせり。此て佛れ。これ
様をさへ信じて。念佛をこたへけ申て。往生
うへん。ぬ人を他力に信じて。たへん。申佛あり。
世間れ事にも他力に依りて。足たえ腰あり。
たへん。のまご道をあゆまん。これそりんよ。
うれん。の船車よのりて。やすくゆく事。こま
けらへん。にあへん。乗物のらへん。たへん。他
力なり。あへん。も悪世れ九丈の。論曲れん

よてがよへはくもたるの物りだもかか
他力ありまうして五劫ありひん思食^{しんじく}ふもた
本願他力れ船いふにのりたも生死れ海を
こころん事うたぐし思食^{しんじく}べう^{べう}はあめ
たう^{たう}はやまひをい^いやと草木^{くさき}もくろく^{くろく}は
磁石^{じしつ}不思議れ用力^{りき}あり麝香^{じやくかう}かう^{かう}も
用^りあり犀^{さい}乃角^{つう}ハ水^{みづ}をよせぬらう^{らう}ありれ
これ心^{こころ}たも草木^{くさき}らひをた^たぬげ^げひの

たも^{たも}りこり不思議れ用力^{りき}ハかくれ
しそ^{しそ}て佛法不思議乃用力^{りき}あり
も^もんやとれ^れ念佛^{ねんぶつ}ハ一聲^{いっせい}ハ八十億劫^{はちじふいっぴやく}の
罪^{つみ}を滅^{めつ}しる用^りあり弥陀^{みだ}ハ惡業^{あくごふ}深重^{しんじゆう}れのを
来迎^{らいおう}ハ^ハゆるすと思食^{しんじく}らう^{らう}
宿善^{しゆくぜん}れありれ^れ沙汰^{さた}罪^{つみ}の^のあり
起^たる^る信^{しん}思食^{しんじく}は^は破戒^{はくがい}を

佛へんがしんがらふもなほいふものをも申すはたは家よも
やまきまにほいほ。それよ〜はほ心えたう〜。御
念佛の程い〜と事まがげ〜して。まます〜
念佛れずはそへんと。たほ〜あさんま。
はよて佛。〜思食〜すま〜て。あ〜物なご
位佛て。あれあま〜い。あ〜これ念佛。これ
〜〜たらぬと。思食と。事い。ゆえ〜佛
ま〜を佛い。ま〜にて申佛も。往生れ業

よて佛へく佛

一百万遍れ事。佛の願よては佛のひらも。小
阿弥陀経り。若一日若二日。乃至七日。念佛
申入極樂に生す。と。うれ〜佛へん。七日
念佛申へま。よて佛。その七日はほ〜乃す。
百萬遍よあ〜り佛よ〜。人師釋〜て佛へん。
百萬遍。七日申へま。よて佛へん。たへ佛い。え
ん。八月九日なご〜を申はま。佛へ〜はれをて。

百萬遍申らば衆人へのじやあるまじきよてん
 衆生一念念十念よくまじま衆生なり。一念
 十念よてまじま衆生ほとこの念佛と思衆う
 まじまて。百萬遍の功德をかゝるにて衆也
 一七ふ全得まらざん其事。信乃まらに申げよ衆。さく
 こそまらざん逆修さかいするこそく衆へさ衆へん後乃
 世にさくひぬ衆まへの衆人をもさく衆
 ちのまらして。衆とまらびて念佛申て。

いそま極樂へまらりて。五通ごつう三明さんめいをらりて。六道
 四生しじやう衆生しじやう利益りやく一。父母ふぼ師長しちやう生所しやうじやうをたひ
 福ふくく心のまらじく思しぬまらして衆也。
 まら當時たうじ日にちごの御念佛ごにぶつをまらひく廻向くわう
 向むかへて衆へん。たまら人のため。念佛にぶつ衆
 廻向くわう一衆へん。阿弥陀佛光あみだぶつくわうをまられらく。地獄ぢやく
 餓鬼がき畜生ちくじやうをまらひく。衆へん。これ三惡道さんあくだうり
 志しにまら苦く衆うくまら。そのくまら。

めらりし時を形かたちのつれづれも心こころのつれづれ
して色いろはまよしくよはまわらぬといひく
能へん今もうわくしからば能くも
はくらし能へ念佛申て往生せどもと思ふ
事此度もくもくしづかに聞得た事
よて能へんもまよし信しんのつれづれ
うれうへ人の心こころの頓機とんき漸機ぜんきとて
能なり頓機とんきの聞て能くはる心よて能

漸機ぜんきの能くはる心よて能なり能
まよしとてまよし信しんのつれづれ
まよしとてまよし信しんのつれづれ
にまよしとてまよし信しんのつれづれ
能へん今もうわくしからば能くも
はくらし能へ念佛申て往生せどもと思ふ
事此度もくもくしづかに聞得た事
よて能へんもまよし信しんのつれづれ
うれうへ人の心こころの頓機とんき漸機ぜんきとて
能なり頓機とんきの聞て能くはる心よて能

一日比念佛申せども臨終りんじゆうより善知識ぜんちしきよあり

淨土往生一かたし。又座より大事業よしてん
る。此の往生もつる。と申せ人の。あらそ
いとて往へども善導の御心よして。極樂處
中の人と心こころして多くも少くも。念佛
申さん人の。念はさん時。阿彌陀佛。聖衆と
ちに來りて迎へ給へ。と往へ。日比ぎにを
御念佛往り。御臨終よ善知識往りども
佛迎へてせ給ふべきにして往。又善知識の力

よして往生する。と申せ事。觀經に下三品の
事にて往。下品下生れ人。たゞて。日比念佛も
申せ。此の往生の心を往ぬ。逆罪人の臨終よ
とて。善知識よありて。十念具して。て。
往生する。にて往へ。日比。他力の願力をた
れ。思惟の名号。唱へ。極樂へ。入る。人。と
思ひ往る人の。善知識の力。往り。佛の來迎
一。給ふ。病をせん。と祈

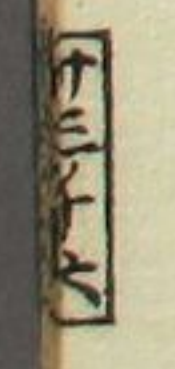
ん事をばうしんは入るも病もせでさめる
人もはうしんをさる時よ。断末摩乃を
はしんしんへ。八萬九千九百九十九。無量れやまひ
男をせめ。佛事。百千れほはるまぎにて。男を
きわはくぐりし。をれを眼たはぐりしを
して。んことたのふそのをもさげ。香れ振
とくしん。んと思しんもいんれとれあわ
こもいん人間の。八苦のうら乃死苦よて入る。

本願信して。往生願がひ入る行者を。これ
苦いのれけしして。向絶し入る息れん
時。阿弥陀ほしけの力にて。正念よたなりて
往生願志入る。臨終ハカをすらすらきこる。程乃
事にて入る。よそよそやまはるあがて入る。
も。佛と行者とれ心よくさるべく入るなり。
そのうへ三種の愛心をこり入る。魔縁
たより減らなく。正念を失ひ入る。此愛心をハ。

善知識ぜんしやくはかたうりにくひがらそとてて供阿
弥陀ほとけの力よてのぞうせ給ふく供
諸邪業しよごう繫無能碍者けいむにやうたれまうを思食へく供
又後世者あうごせいとたばうまう人乃申げよ供のまう
正念しやうねんより住して念佛申うん時よ。佛来迎
志しちまうふ給うと申げよ供へらま。小阿弥陀
經よは。與諸聖衆よしよ現在其前げんざい是人終時しよじゆ心不
顛倒てんたう即得往生阿弥陀佛極樂國土と供へらま。



人の命をうんずるとい阿弥陀ほとけ聖衆こ
ともにも目れ前よ来給たうんをまういんまいら
てて後よ心の顛倒てんたうを治して極樂にひまう
給うとて心得て供へらまをかうま病候
せらやといのせ給らんとはまて今一遍も
病たれ時念佛を申うて臨終りんじゆより阿弥陀
ほとけの来迎らいごうを給て三種しゆしゆの愛心あいしんをのぞき正念しやうねんよ
たうれまうてて極樂よまわんと思食へく供。



らまばとて。げうげうに供ぬるん。善知識に
じろぐをうんと思食魚まにてハ供ハ後。
先徳達れをうへよ。臨終れ時り阿弥陀佛を
西れ壁よ安置し。まいらせて。病者それ前よ
西向り。即て善知識よ念佛をすめ。れよと
それ供へ。そそそとあ。ほほ。きまにて供へ。
但人の死乃縁。ひひて思ゆ。そこのたひ供ハ後。
俄よ大路よてをうる事。を供。又又小便利の

よよて志ぬるんを供。前業のうれがうて。ち
カ。これよて。命は去ひ。火よわけ。水よねが
きて。命をほるほす。そそひ多供へん。た様
よて。志に供と。日比念佛申て。極樂へまいる
心だよ。そ供人た。ば息れ。そえん時。弥陀
観音勢至来て。迎へ給。魚。と信。し思食
魚。これよて供。なり。往生要集よ。時處諸縁を
論。て。臨終よ。初て往生を。そそ。え。福よ。

食いごん事かしく休ぬるく休に所作にほく
あてつひにす後ひるせ給休つ。思食いで
休ぬと覚休ぞ。いふのほらあましく。
うせたりやうして休らも。あまほくまじつ。
事よと思食休いん。いふり。あま休休ん
ふさぞう。いそまかしても。いふと休休ん。
相續まうぞくして休ぬ。又うけて休ん。いふ所作を。
次の日申入る休休ん事。いふ休ん。いふも

あす申入る休休ん。すきとぞう。いふゆづん
休ん。いふ。いふ。せめて休事にして。いふ休へ。
御心得あましく休

一真鳥いまいに七箇日しちかん乃忌いひの休なる事。いふや休
らん。ええ及ら休地ぢ祈いいさう。いふ家
をれい。過去くわこれ父母ふぼよて休なる。いふ。いふ。いふ。
事にして。いふ。又臨終りんしゅうよ。酒真鳥さけいまい慈蓮じれん絲し
たごい。いふ。いふ。事にして。休へ。いふ。いふ。



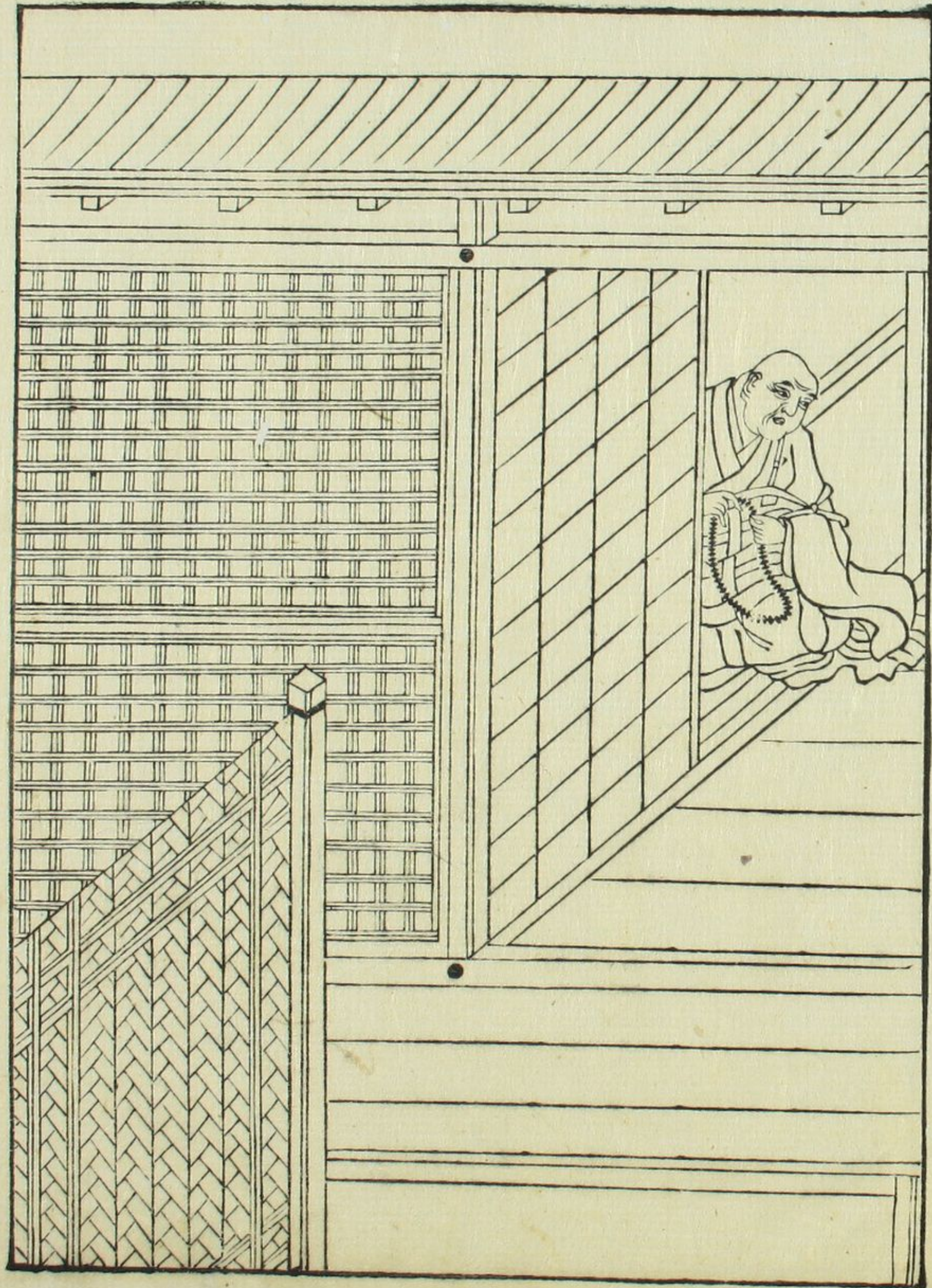
うぎりにたるとしていふくまのよしてはれ
 ども當時トキまことまぬらりのはれぬ病は月日
 はらの苦痛くつうま志のいごとくはれんよゆはれ
 ぬたんと覺おぼはれ。以身たごとく念ねん佛申さんと
 思食ては療治りょうぢはべし。命いのち行じは往生じやうじやうはたか
 してはれ。病やまをかちをん。療治りょうぢいひはれぬと
 覺おぼはれ

鎮西より上洛せ家修行者上人乃庵室より
 来りていさる見系に入さる先よ御弟子に
 對して称名れとた佛の相好よ心をくさるとい
 いう能へまこと尋申せれん。然てたくそそ
 侍るんと申せれば上人道場にて聞かざるが
 明障子紙あけ給て深空いさる。次は若我
 成佛十方衆生稱我名号。下至十聲若不生者。
 不取正覺彼佛今現在世成佛當知本誓重願





不^こ虚^こ衆^{しゆ}生^{じゆ}稱^{しやう}念^{ねん}必^{ひつ}得^{とく}往^{わう}生^{じやう}と^られ^りぬ^らく^らわ^られ^り。
我^{われ}等^らが^らふ^らよ^らて^らい^らに^に觀^{くわん}と^らし^しも^も更^{さら}に^に如^に說^{じゆつ}の^の觀^{くわん}小^{せう}
あ^あら^らた^たぬ^ぬく^く本^{ほん}願^{げん}を^をた^たの^のと^とく^く口^{くち}よ^よ名^な号^{ごう}を^を
唱^{とな}す^すの^のと^と假^け令^{じやう}た^たら^らし^しけ^ける^る行^{ぎやう}た^たり^りと^とぞ^ぞ信^{しん}と^とし^し。
と^とし^し。



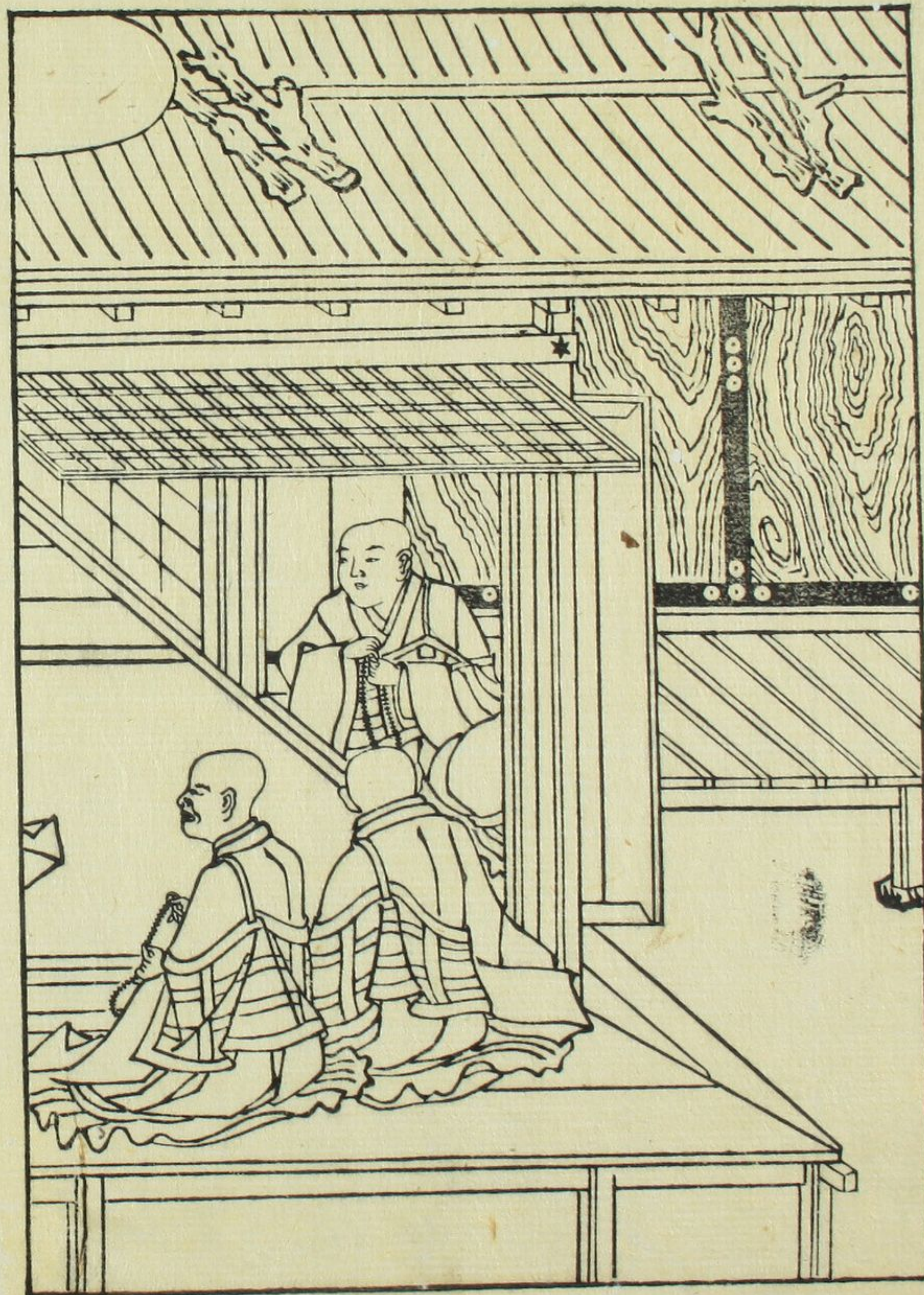
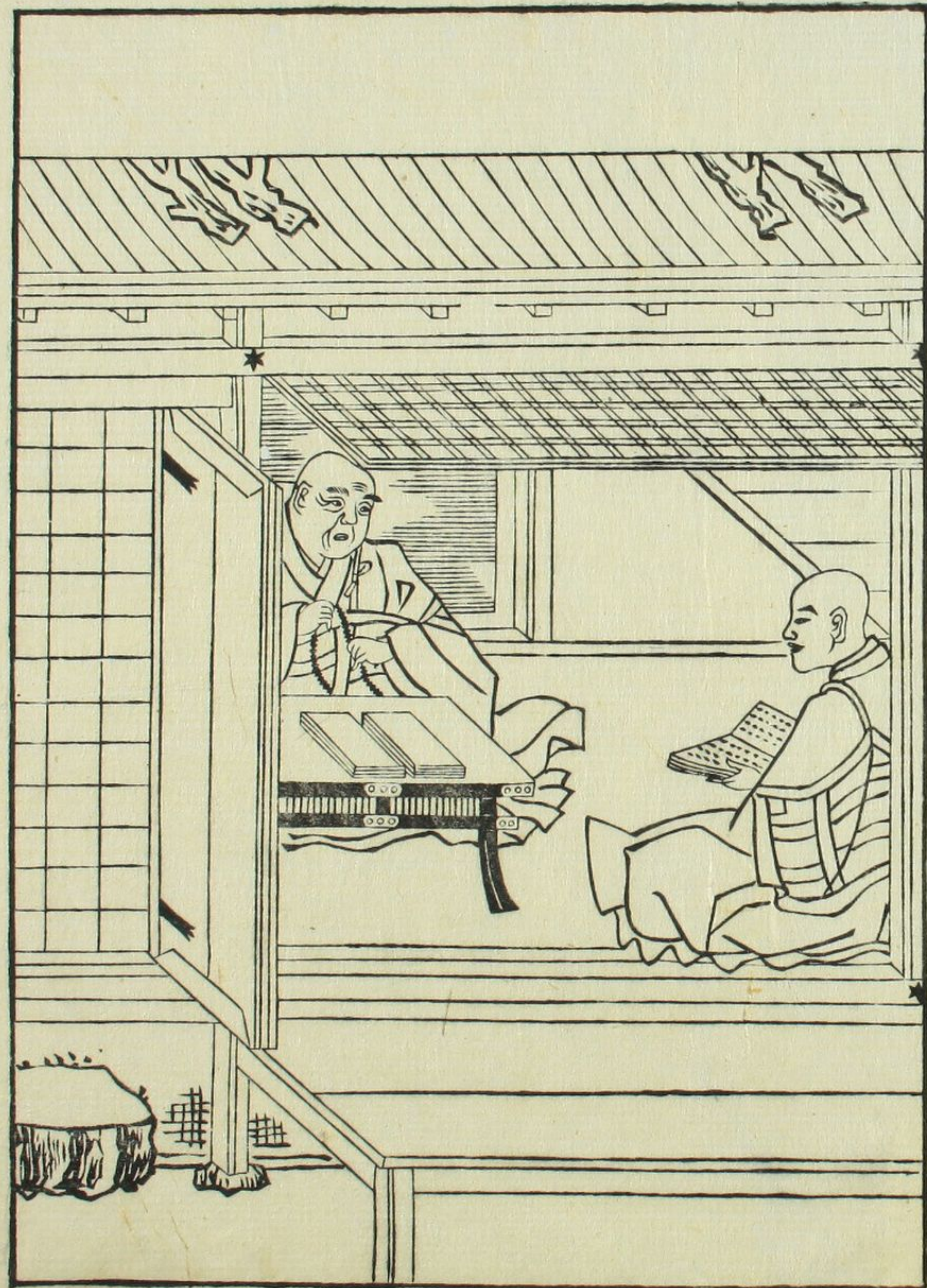
法然上人行狀畫圖第二十四

上人の終り。阿彌陀經の念ふ念ふ念佛往生と云ふは
説くは心得^{こころ}遍く^{あま}。文よ隱顯^{おんけん}ありといへども。
廣略^{くわうりやく}に義^ぎ成^{なり}て心^{こころ}も^も。四十八願を^よこ^しく^くを
説^とく^はる^に。經^{きやう}なり。舍利弗^{せりぶつ}。如我今者。讚歎^{さんたん}阿彌陀佛。
不可思議^{ふくしぎ}功德^{こくとく}といへる。阿彌陀ほとけの功德ハ。
即四十八願なり。念佛往生^{にぶつじやうせいじやう}と云ふ。それ申す
第十八の願を^よこ^しく^くなり。又此經よ。一日七日^{いちにちしちじつ}念

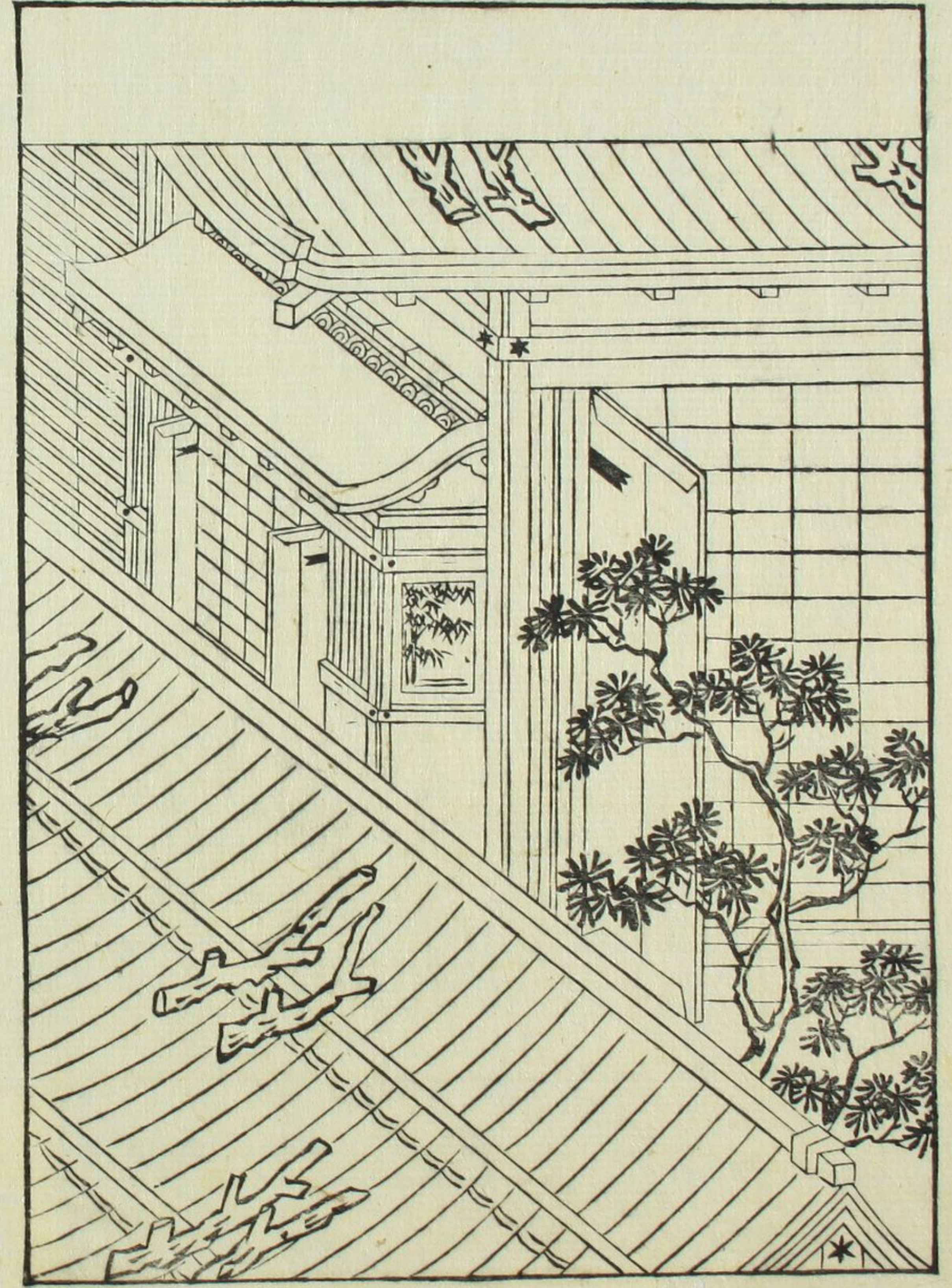


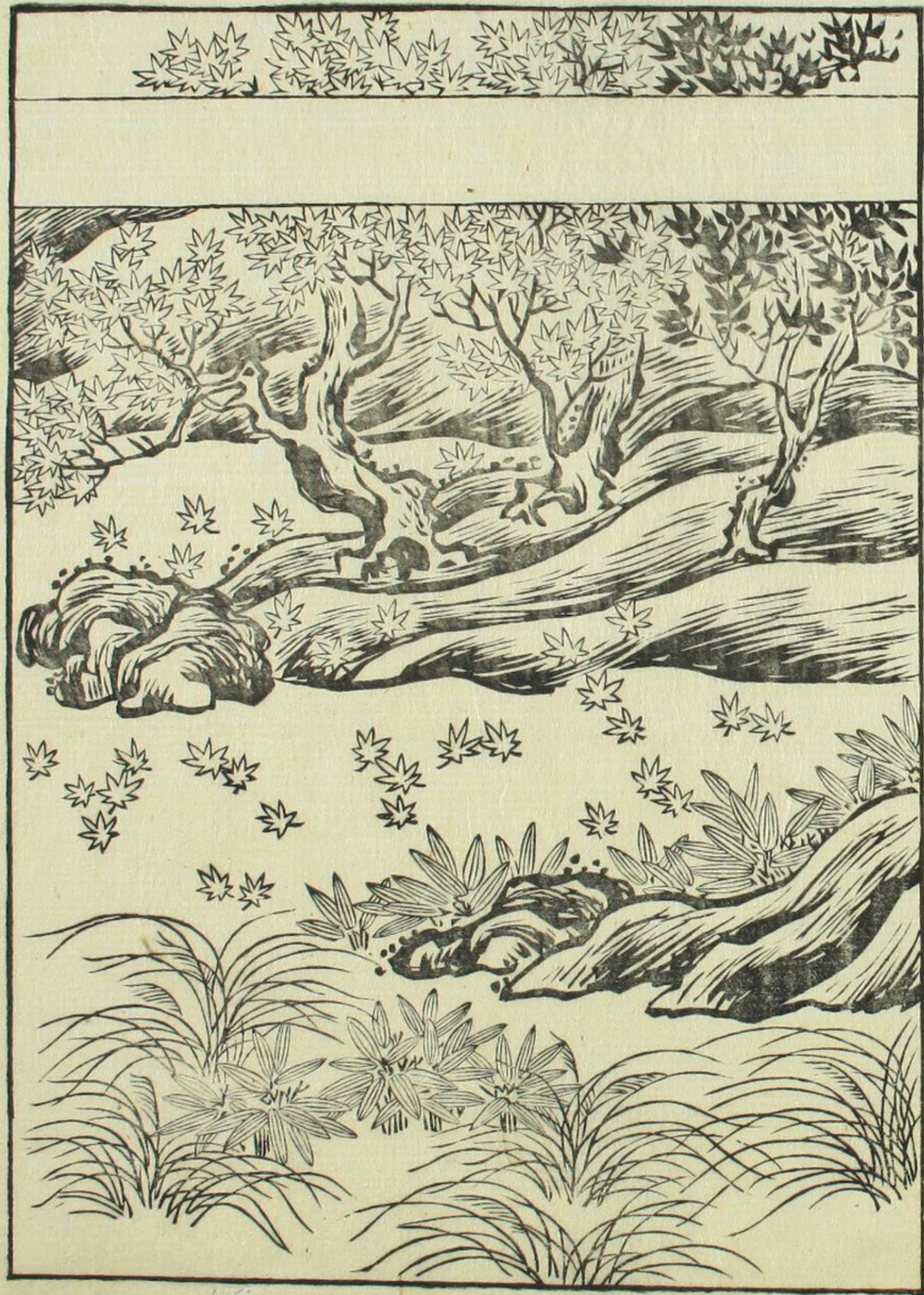
云へる限かぎたゞ一日七日かぎの限かぎと意得るこころの僻事へんじ也。
善道ぜんどう和尚おしょうの觀經くわんぎやうの疏しよに上品上生じやうひんじやうじやうれ一日七日を
釋しやくし終しゆう。從具此功德じゆんぐしこくどく以下いげ。正明修行時しやうめいしゆぎやうじ即延すなはち
促上盡しやくじやうじん一形。下至じやうし一日一時一念等いちじついちじついちげんたう。或從一念
十念じゆしげん。至一時一日一形。大意者たいぎしやう。一發心いちぱつしん已後いご折言せつげん
畢まひ此生こせい無有退轉むいうたいてん。唯以淨土為期ただじやうどをき也。判はん
終しゆうへり。此釋しやくをよみて准知じゆんちす。に阿彌陀經あみだぎやうれ一日
七日にちしち也。又如此意得またこころ也。此釋しやくよ三さんれ意あり。

一よハ多おほより少すくよ至いたり。二よハ少すくより多おほり
至いたり。三よハ大意ハ一發心いちぱつしん已後いご退轉たいてんなり。此
いへるなり。初の二ハ要えんよあると。後れ一ひとれ要
なり。所詮しよせんハ往生しやうじやうれ心を發はつしてのら。余終あまよて
退たいせらる。よきは大意たいぎとす。なり。凡もろ此阿彌陀
經ぎやうハ我朝われあしたり都鄙とひ處きよこに多おほき流布りうふなり。
法華經ほふげと。寂勝王經じやくしやうおうぎやうとは。諸宗しよしゆれ學徒がくど兼學けんがく
とす。拒武天皇こぶてんたう乃御時みとき。宣旨せんしを下くだされ。

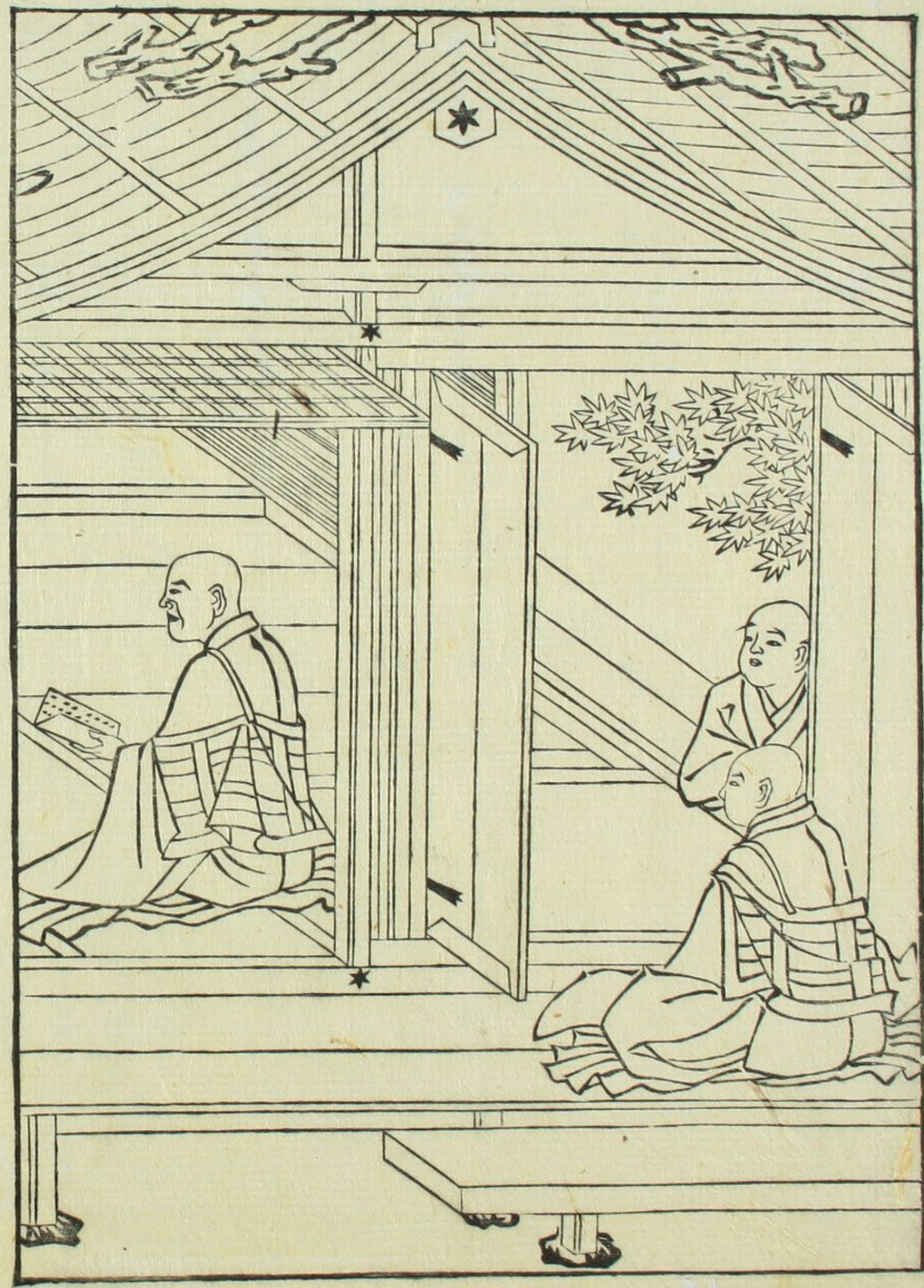


上人のしよつく。諸宗の祖師はこれ極樂なり
 生く強へり。所謂真言の祖師。龍樹菩薩。天台
 此祖師。南岳智者。章安妙樂等。三論の祖師。
 僧叡。華嚴の祖師。智儼。法相宗の。懷感禪師。
 本宗。法とてく。浄土宗よ入る。天親菩薩ハ
 法相宗の祖師なり。往生論を作て。極樂を
 すくじ。達摩宗の祖師。智覺禪師。上品上生此
 往生人なり。其外名僧此中よ。往生人此多し。





あぐらに
蓮の
池





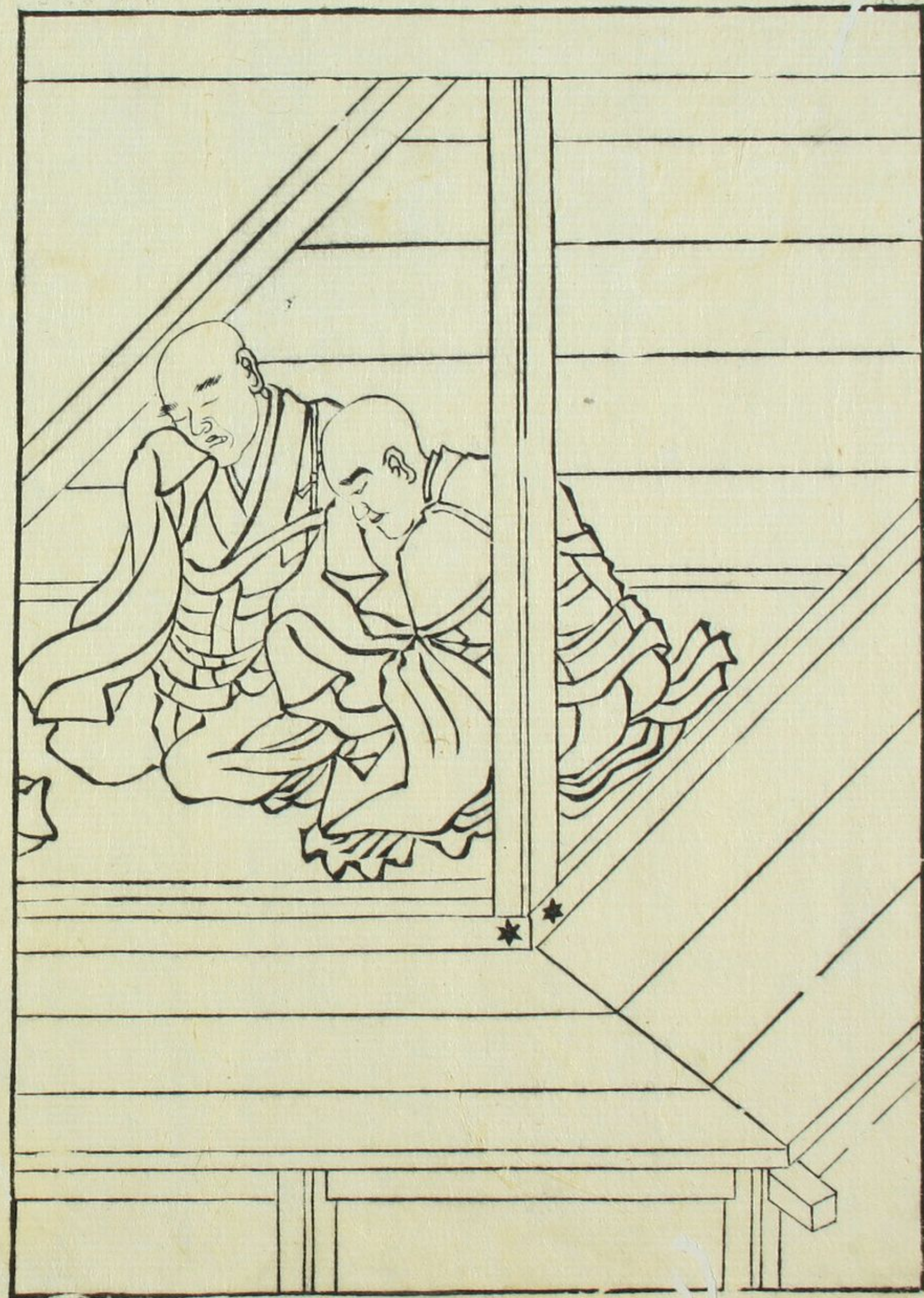
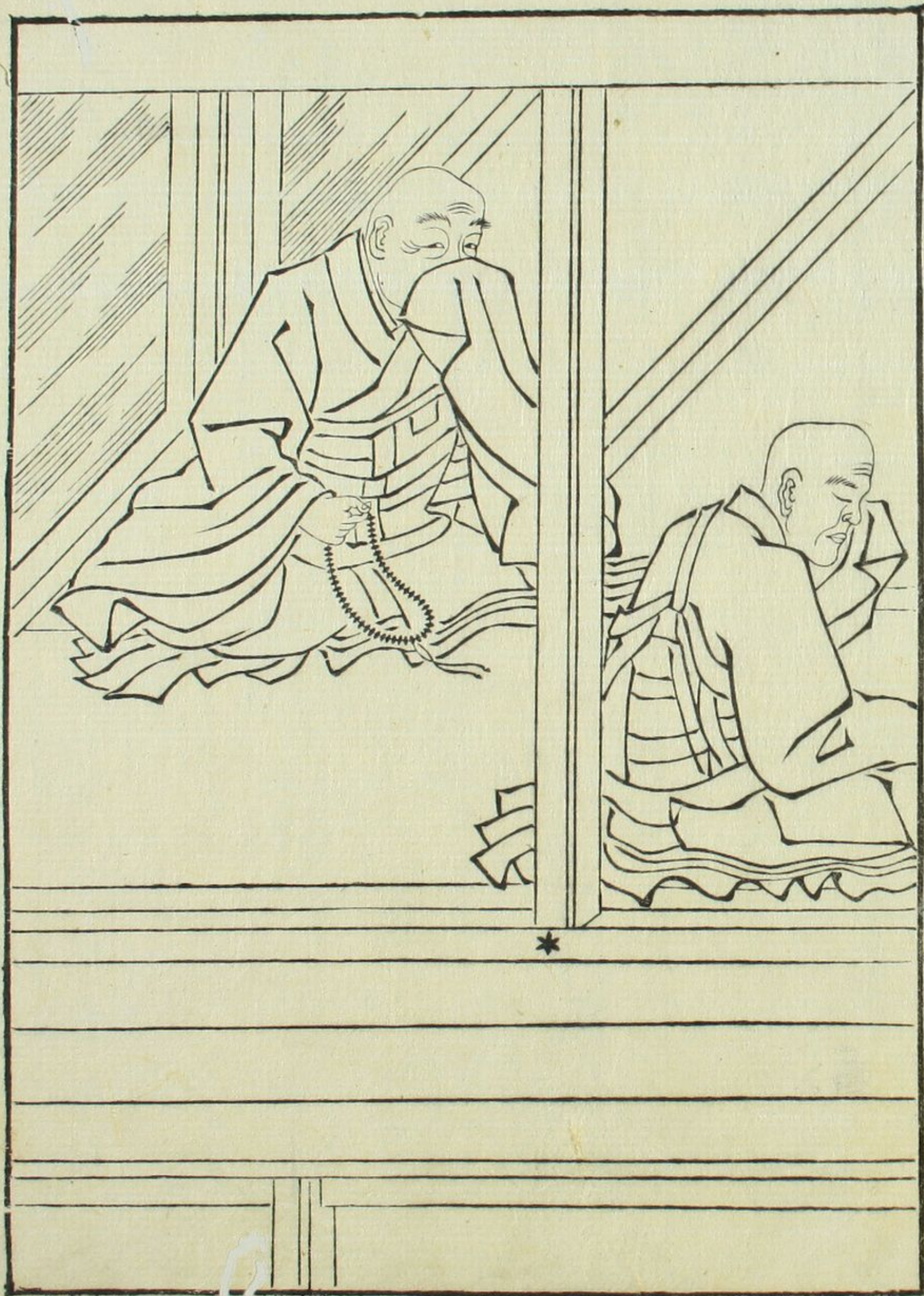
或時あるとき聖光房しょうこうぼう法力房はつりきぼう安樂房あんらくぼう侍さむらいに安樂房
 上人じょうじんより尋たずね申まをして云い。我われ素もとより入いる輩たぐひかゝり十重じゅうじゅう
 をえたるはばばに妄念まうねんを滅めして又また勇猛精ゆうめいしやう
 進しんむすべしして身みに善惡ぜんあくをえしむべし
 ぞと彌陀みだの本願ほんがんを信まをじてあきらむ。決定けつてい往生おんじやうは思おもはれ
 侍さむらいの往生おんじやうは侍さむらいべしやと上人じょうじんの言ことをまをりて
 其條そのぢょう勿論もちろん也なり所詮ところせん決定けつてい心こころを生なむ。往生おんじやうす
 在あり人ひとあり。煩惱ぼんぷ罪惡ざいご等られ。往生おんじやうは障さう不障ふさうをます。

凡^ゴ夫^ブの心よてい^ク覺^ク知^ラすへう^ク彼^トいへと^モ本願^ノ相^ク應^スと^ル程^ニ念^フ佛^ヲ申^スた^クん^ノい^ハぞ^モ波^ハ障^リ導^リして^ハ往^シ生^ス波^ハち^ヨく^クる^罪ハあ^ルべ^クは^シ往^シ生^ハ念^フ佛^ノ信^ハ否^トよ^クる^べし[。]更^ニよ^ク罪^惡ハ有^ル無^クよ^クる^べし[。]更^ニよ^ク罪^惡ハ有^ル無^クよ^クる^べし[。]た^ラば^ハの^往生^ヲを^ゆい^だん^ぞ妄^念の^有無^ハき^くぬ^まや^と信^じる^に安^樂房^又申^て云^ふ。虚^假れ^者ん^往生^ヲと^申は^ば何^様よ^心得^傳べ^きぞ^や。

上人の強^クく^虚假^トとい^ふは[。]こと^はら^らに^縁構^す。輩^ハなり^好ま^しく^して^自然^リ虚^假なり^ハ。往^生の^障よ^あら^ば念^佛の^信心^ヲを^發た^ん人^ハ。必^ズ定^ムして^往生^トと^べし[。]更^ニり^疑ふ^ハ難^シなり[。]善^導れ^釋を^能こ^心し^べき^なり[。]善^導れ^り。中^ハら^ざれ^まし[。]は[。]と^はら^らい^てこ^れと^び。生^死を^離へ^まや^と信^じて^落波^ハ。浪^ハ。間[。]聖^光房[。]法^力房[。]安^樂房[。]と^れと^すに[。]涙^ヲを

たへて信心をまゝに。其時聖光房。これに
一切は往生を疑はばと申はれども。上人又
のたまふ。貴房達ハ。少くも罪過ありと云
争往生を遂ぎんや。但外人ハ。意得てい
き。次は。強盛心を。次は。落涙す
るに及ばば。念佛ごてを申さば。往生と
成すなり。見思塵沙無明。煩惱の
障をば。念佛の一行。この煩惱

よそは。往生ごげ。十地究竟する
なり。他宗よ。實教よ。權教よ。密教よ。も
顯教よ。十地究竟する事ハ。漸頓を論ぜ。次
ま。念佛の。大事なり。念佛の
一行よ。往生ごげ。十地願行自然よ
成就する事ハ。誠り甚深殊勝。事なり
とぞ。信はれり。



申し川魚をさしごとし始終のたまふべしとある間。
返答をばしして居るにしうば。師とれつら
入威し強つら。何況當時れ我等をや。傳教大師弟子
達。四種三昧を一にありて。修行せよとありて
事侍り。慈覺大師。常座三昧ありて修行
し強つら。常座難行なりとありて。何んためて常
行三昧とれると申せり。かくれどもこの修行ハ
上古より修行が事顯然あり。何況當世の

九丈をやらとて。聖道門の難行れる事。浄土門ハ
修し居るとき様。こまこと修しれ。所詮末
代の佛法修行の證をうする事。只念佛の一行
なり。是則弥陀の本願。頃どもうめあつと
の強しれ。信心實をいし。但頭合掌しして
歸りにたり

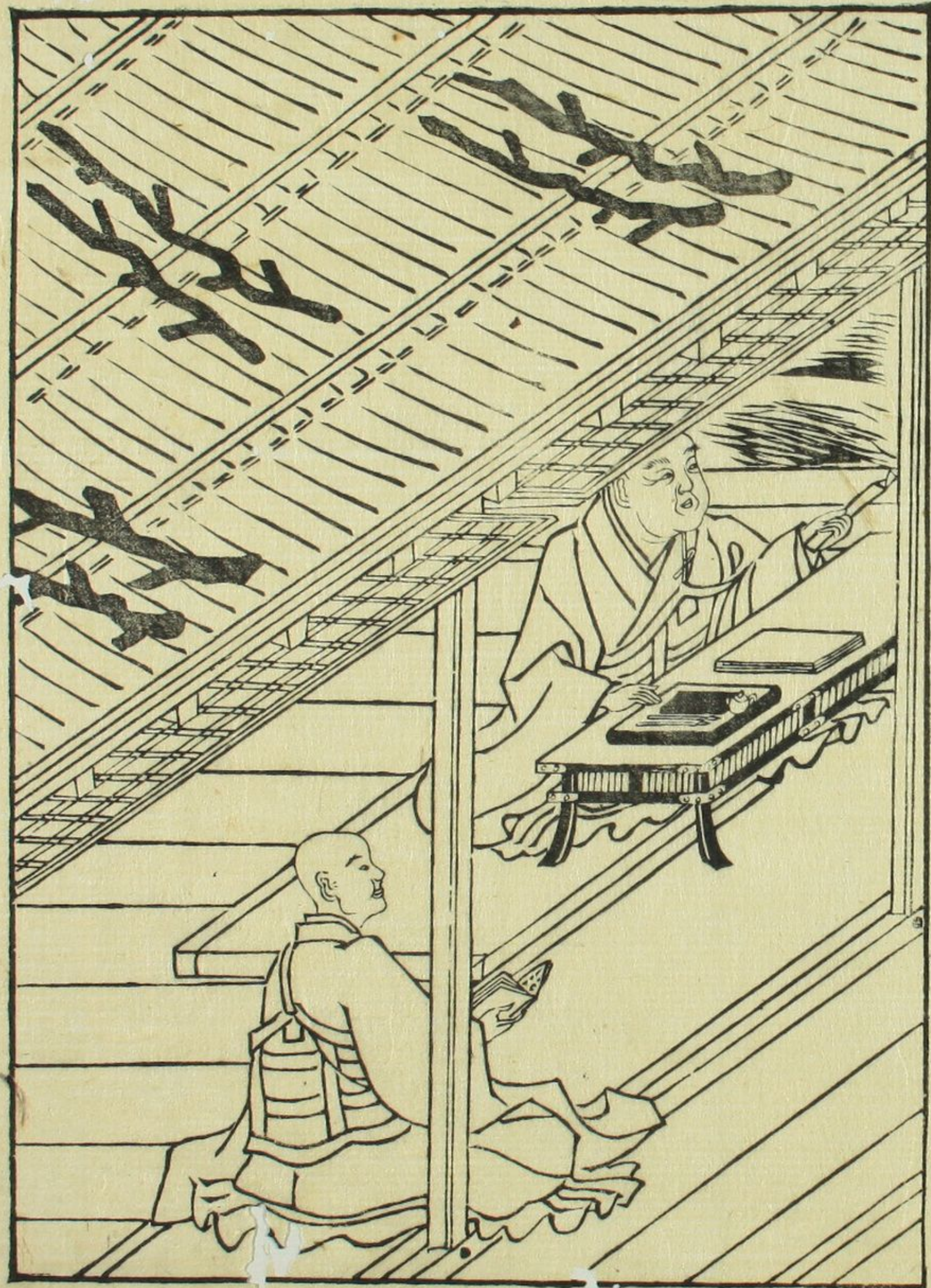


法住寺九京大吏信實朝臣女侍ももる
女房乃尋申分るに法もて上人の以返車云
念佛の行者れ存候へき様は後世返をそれ往
生を縁づいて念佛とれををる時れれど
来迎せらせ強り候存して念佛申より外の
事候は三心と申候えよこひく申時い
一れ願心よて候ありその縁づふ心のいり候
らぬ方候へ至誠心と申候此心れ實にて

念佛とれを臨終り来迎とてい候事候一念も
うらぬ方を深心とい申候これうへより力を
あれよへひまれんとれさひ行業をも往生乃
ためとしく候廻向心とて申候あり此故よ
縁づふ心のいり候らぬがよ往生せんと思ひ
候へんをのづつ三心の具足する事にて候
あり中品下生に来迎の候らぬ事ありあり
各

これありては事略をまじへてたゞ事を行はせ
善道なり。三心之品にまじりてあるべしと
ええく供品にしてはくは事進へとも。三心と
来迎といふ。これらけある。ゆきにて供あり。往生
願う人行者は。必三心をたす。ゆきにて進へ
上品上生に。これをとまて。餘れ品をとまて。六邊よ
かまへて。まじりて。ええく供。又我亦戒品の
舟筏をたす。たきん。生死乃大海なり。とる

ゆき縁を供す。智慧光をく。生死乃
やまて。まじりて。けれ。聖道の得道よ。を
ええたる。まじりて。ためて。まじりて。他力と
申供。第十九の来迎の願よ。て進へ。文り
ええく供。これらけ。来迎あり。まじりて
供あり。ゆき。まじりて。まじりて。ありし
こく
源宣



伊豆國を湯山に。妙真と云尼ありき。法華の
持者真言れ行人ならん事乃たるをありく
上洛のとき。上人の教化よ終く後。おぐ餘行
すく。偏よ念佛を行ど。その功は。なりて。ひに
化佛をえんそ。えまつる。更り餘人よか。つ。は。め
同行の尼一人よ。こ。れを志りす。ある時。不註明具
申尅よ。往生すべ。と。いふ。更よ。や。ま。ひ。れ
時尅た。ぐ。つ。げ。翌日申時よ。端座合掌。高聲

念佛して。往生。は。ど。妓樂天よ。き。こ。え。異香
室よ。こ。ら。り。て。奇瑞耳目を。驚。し。たり。

